



長野県民生児童委員だより

つなぎびと

Vol. **124**

2016
Spring

平成28年4月1日

発行人 長野県民生委員児童委員協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

特集



見守りへの 取り組み



民生委員児童委員100周年
記念マーク

Contents

◆特集 「見守りへの取り組み」

- 長野市 孤立防止
見守りネットワークとは 2~3
- 長和町社会福祉協議会
いきいきメンズサロン 4
- 松本市寿台の見守り 5

◆民児協訪問

- 青木村民生児童委員協議会 6
- 野沢温泉村民生児童委員協議会 7

◆つなぎびと 8

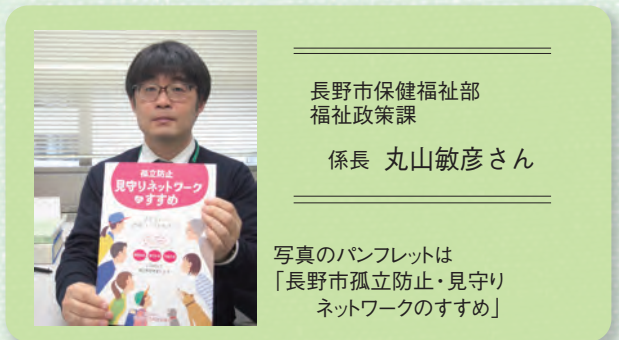


見守りへの取り組み

見守り、通報、相談の体制づくり

「年齢に関わらず、誰でも地域や社会から孤立し、孤立死につながるおそれがあります」と、市保健福祉部福祉政策課の丸山敏彦さん。長野市では、周囲に気づかれず亡くなってから相当期間経って発見される、いわゆる「孤立死」をなくすこと、身近な地域で異変に気づき必要な支援につなげることを目指して、平成25年6月からこの事業に取り組んでいます。また、孤立防止の体制とネットワークづくりを進めるために、市社会福祉協議会や市民生児童委員協議会、行政機関、福祉団体、ライフライン事業者などと、「長野市孤立防止・見守りネットワーク協議会」を立ち上げ

長野県では、高齢者の孤立死等を防ぎ、安心して暮らせる地域づくりを推進するため、平成25年7月4日、民間事業者や私たち県民児連と「長野県地域見守り活動（しあわせ信州見守り活動）」を締結しました。市町村でも、その後から次々と見守り活動のネットワークづくりに取り組んできました。今回は、長野市の「孤立防止・見守りネットワーク事業」を紹介いたします。長野市の担当者にお話をうかがいました。

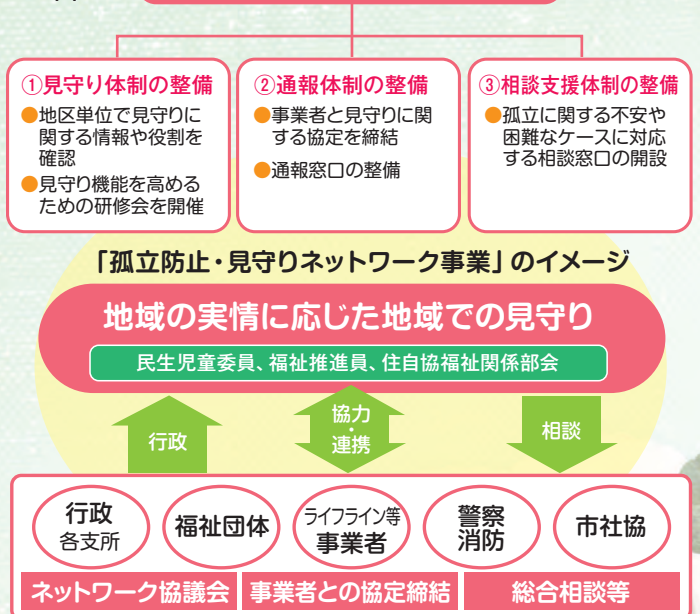


長野市保健福祉部
福祉政策課
係長 丸山敏彦さん

写真のパフレットは
「長野市孤立防止・見守りネットワークのすすめ」

ました。協議会では、それぞれの団体の取り組みや、現状・悩みなどを出し合いました。立ち上げからこれまでに「高齢者等見守りのための通報ガイドライン」を定め、「長野市高齢者等の見守りの協力に関する協定」を39の事業者と交わしました。事業概要は①見守り体制の整備②通報体制の整備③相談支援体制の整備の3つの柱を掲げています（図1）。①では、各支所を中心として17の地区で、地域の団体が集まったネットワーク会議を実施しました。今後も多く地域で開催や継続を呼びかけていく予定です。②では、電気・ガス・水道・新聞・金融機関・コンビニまで、39の事業者と協定を結びました。今後事業内容の周知を行うとともに、事業趣旨に賛同・協力いただける事業者を募っていきます。③では市社会福祉協議会が中心となって相談体制づくりを行っています。

図1 孤立防止・見守りネットワーク事業



地域の取組事例 1

パンフレット「長野市孤立防止・見守りネットワークのすすめ」より引用

古里地区駒沢第二団地 総合的な取り組みにより セーフティネットを構築

この地区では、孤立防止のために、サロンと並行して、住民が日中元気であることを示す「今日も元気だ輪」の取り組みや、「緊急時連絡カード」の配備にも取り組んでいます。

サロンに参加しない人も「今日も元気だ輪」を玄関先に掛けることによって、日常のゆるやかな見守りに含めたり、「緊急時連絡カード」を筒状の容器に入れて冷蔵庫に保管することで、緊急時に救急隊が情報をすぐ確認できるようにしています。複数の取組を築くことで地域における「セーフティネット」としての機能を高めていくことができます。

図2

孤立防止・見守りネットワーク

3つの力で孤立を防ぎましょう



協定締結事業者が、訪問先で異変に気づいた場合、市役所内にある「中部地域包括支援センター」の、専用電話に24時間通報することが可能です。

通報が入ると、市ではその方の情報を確認して、担当課へつなぎます。必要があれば、状況確認のために民生児童委員に連絡して確認していただいたり、行政職員が訪問して確認を行います。そのうえで、必要な支援等につなげていきます。例えば、生活保護などの制度へつなげたりすることもあります。

「民生児童委員の皆さんには本当によく協力していただいている」と担当者。今回のネットワーク立ち上げで、通報する窓口を明確にすることで、事実確認から必要な支援などの対応を的確に短時間でできる体制が整いました。

通報窓口を行政に一本化

団体や地域の方たちに周知

わかりやすいパンフレットも作成配布しています。その中で「見守る力」「気づく力」「つなぐ力」の3つの力の必要性を訴えています(図2)。「見守る力」では、見守りが必要な方のヒントや、ゆるやかな見守り方、ご近所との連携などを啓発しています。「気づく力」では、見守っている方の言動の変化や、新聞・洗濯物・照明など気づくポイントなどが書かれています。「つなぐ力」としては、緊急連絡先や、親戚やご近所、民生児童委員や区長などへ連絡、そして緊急を要する異変に気づいた場合は、いち早く専門機関へつなげることが大切であることなどが書かれています。

実績が確実に効果を発揮

長野市の過去2年度の実績は表1のとおりです。
③は生活保護などの支援制度へつなげたもの④は入

表1

| | 25年度 | 26年度 |
|-----------|------|------|
| 通報件数合計 | 19 | 17 |
| ① 死亡 | 1 | 3 |
| ② 救急搬送 | 1 | 3 |
| ③ 制度等支援対応 | 4 | 3 |
| ④ 異常なし | 13 | 8 |

地域の取組事例2

パンフレット「長野市孤立防止・見守りネットワークのすすめ」より引用

篠ノ井区唐臼保健福祉部
地区の関係者が連携しながら
地域全体の見守り活動へ

この地区を担当する民生児童委員が、一人での対応に限界を感じ、福祉推進委員と話し合い、サロンを軸としながらより積極的な見守り活動を展開。サロンを実施する際には、住民に周知するための区内のチラシ回覧だけでなく、高齢者を中心に訪問し、サロン「寄り手亭」のお知らせにあわせて「見守り」や「声掛け」を行っています。

「これらの対応件数は、あくまでも通報があった場合に限られるため、民生児童委員の皆様を始め、地域の方が日頃から、その場で解決されている事例も多い」と担当者。地域での連携体制のネットワークができてきたことで、確実に少しずつ効果を生んでいます。

- 事例1 郵便受けに書類が溜まっていたため民生児童委員から通報を受け、確認したところ、困窮が分かり、生活保護に繋がった。
- 事例2 ガス会社より4日間ガスが使われていないとの通報。民生児童委員と大家が状況確認し、警察に通報し死亡を確認した。

院や旅行など短期であるため、新聞などを止めずに外出したことがわかった事例だそうです。26年度は「事業の趣旨が協定締結事業者に周知され、的確な通報を頂いているのでは」と担当者は分析しています。

具体的な事例は次のとおりです。



見守りへの取り組み

見守りの取り組み事例を訪ねる — その1

長和町社会福祉協議会

いきいきメンズサロン

小県郡長和町和田4253-1

TEL0268-88-3069

FAX0268-88-0188



▲2月19日小諸布引温泉手の交流会の様子

「いきいきサロン」は県内各地域で企画されています。しかし、課題となるのは男性の参加率です。平成21年から続く、男性を対象とした長和町のいきいきメンズサロンの、温泉での交流会を訪ねました。

最大60人の男性が参加するサロン

企画担当したのは長和町社会福祉協議会の羽田二三恵さんです。「いきいきサロンを34地域でやっても、男性は、ほぼ参加がなかったのです。女性が多いと、なかなか男性は出てきても話に入れない。そんな時、情報誌でメンズサロンの取り組みを読みました。思い切って企画してみました」。平成21年に34地域のボランティアにお願いし、男性を誘ってもらいました。出てきたのは30人。楽団を入れて生力ラオケを企画し、大いに盛り上がったといいます。

その後、羽田さんはメンズサロンのチラシを多めに刷って、参加した男性に数枚ずつ配り、友たちを誘ってもらったといいます。以来、70代から90代まで多い時で60人が集まります。「多少の補助をしていますが、会費はきちんととります。飲み会をできるだけ行事につけて、会費4千円の時もあります」と、羽田さん。

取材した日は小諸布引温泉で日帰りの宴会で50人が参加しました。「飲み会があれば、男性は集まりやすい。だから必ず送迎することがポイントです」と送迎



▲会長の宮坂俊夫さんが冒頭にあいさつ

▼担当の羽田二三恵さん



継続の秘訣は、参加者の中から、ボランティアリーダーをお願いしていることです。その人たちが、世話役となりできるだけ多くの男性を誘います。会長の宮坂俊夫さんは「これからの高齢社会を支えるのは、退職した世代が自ら動くことです。この活動で仲間作りや絆づくりをすすめる、地域を支えていくことが重要です」と話します。今後の課題は、「こうして集まった人材の絆つくりによる地域への貢献だとします。羽田さんは「ぜひもっと多くの男性に参加して欲しい」と強調します。そのためには、回数を増やしていくことや、小さな地域でのメンズサロンの実現が課題となっております。

課題は社会貢献と小地域での開催

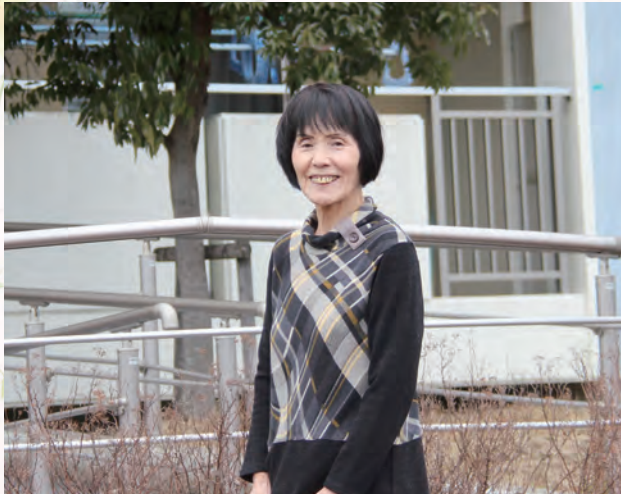
には町のバスの協力も得ています。現在メンズサロンは年4回開催。6月はゴミ拾いのボランティア、7月から8月にマレットゴルフ、9月に焼肉、2月に温泉と、場所もその都度変えることで、地域を超えた参加があるように工夫しています。また町長との意見交換会なども過去に行いました。



▲6月はゴミ拾いのボランティア活動



▲町長との意見交換会もやりました



▲松本市寿台地区民児協会長 林敏子さん

各地で見守りの課題となっているのが、公的な団地やマンション等です。民生児童委員がなかなか入り込めず、把握しづらい状況があります。今回の特集では、松本市の市営団地の住民の一人として、高齢者を見守る民生児童委員を訪ねました。

見守りの取り組み事例を訪ねる ― その2

松本市寿台地区民児協

松本市寿台の見守り

月1回のチャイム越しの見守り活動

松本市の市街地の南東に位置する寿台は、市営・県営の大規模な団地と戸建て住宅が混在する地区です。林敏子さんは市営団地ができた昭和48年からの住人。「この辺りが原野だったころから知っています」といいます。現在、2階建だった団地は順次新築されている最中で、林さんは、他に先駆けて5階建4棟が完成し「モデル地区のようになっていく」という3丁目に暮らしながら、団地生活を知り尽くした人ならではの目線で見守り活動をしています。

基本は「何もなくても月に一度の訪問」。市営団地というと単身高齢者や障がい者の多いのが特徴と想像がちですが、3丁目はそうではなく「要見守り世帯は多くない」とのこと。新築されて高層になり家賃も上がったことから、引き続き住み続ける人は意外に少なく、かつての隣人たちはバラバラに。代わって子育て世帯の新規入居が増えたからです。「2階建だったころは近隣の付き合いがあったが、新棟になって人間関係が変わった」と林さんは感じています。「同じ団地と一般住宅の違いは玄関のドアひとつで隔たっていること。チャイムを鳴らすのは神経を使います」とも。一戸建てなら庭先や裏口で顔を合わせたり、声をかけたりのチャンスもありますが、集合住宅でのアクセス手段はチャイムしかありません。新棟にはインターフォンがあるため、ドアを開ける必要さえなく、林さんの見守り活動もたいへいは「チャイム越し」とのこと。「お元氣ですか、風邪ひいていませんか」と声をかけ、相談ごとがあったら記入できる用紙や詐欺防止のチラシなどを郵便受けに入れます。ドアを開ける人や中に招き入れる人は少ないといわれています。



▲林さんが住む市営住宅

建て替えによって人間関係の入れ替わりも

一方で、「長年団地に住んでいると、隣や上の住人の様子が雰囲気に分かる」。隣の部屋で動く気配が感じられず、車も停まったままだったので「インフルエンザかと思っただけで電話したらそうだった」という経験もあり「独立しているような、していないような…」と、団地の特徴を表現しています。

長期の留守の把握も難しく、病院通いやヘルパー利用の頻度なども直接知ることは、ほとんどできません。かつて、いわゆる「孤独死」の例もあったとのことですが「すべてを把握するのは無理ですね」。旧棟から新棟への過渡期にある寿台団地。同じ市営団地に限っても旧棟のみから建築中、新棟のみと地区によって事情が異なり、それぞれが模索しながらの見守り活動です。

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



青木村民生児童委員協議会



▲17名の委員で青木村を支えています。前列真ん中が青木会長、左隣が沓掛さん。

日本一住みたい村に輝いた青木村
子育てしやすい環境づくりに注目！

「ここは日本一住みやすいところです」と、開口一番に話すのは、会長の青木静夫さんです。今年初め全国誌で、青木村が「日本一住みやすい村」として選ばれました。実は青木会長も10年前に関西から移住しました。青木村は人口4千5百人強、上田駅から西方へ車で約20分。田園風景が広がり、青木三山に囲まれた静かな山村です。国宝大法寺三重塔を有し、田沢温泉と沓掛温泉には、湯治客が訪れ

ます。青木村は明治22年（一八八九年）に、一郷五ヶ村が合併、東山道の道しるべ、青々と茂る常緑樹「ねずみさし」が「青木」の名の由来と言われています。

主任児童委員で村出身の沓掛昭子さんに、移住人気の秘密をたずねると「義民の郷（さと）だからです」と力強く答えてくれました。

義民とは正義のために一身を投げ打った村人のこと。江戸時代に世の改革のために5回に渡る百姓一揆を先導した先人の反骨精神と勇気を忘れず、子どもたちが「義民太鼓」の伝統を引き継いでいます。

特に子育て支援に重きを置き、青木村児童センターは高校生まで無料で利用することができ、学年を超えたコミュニティスペースとなつています。民生児童委員も、イベントに顔を出したり、学習指導のボランティアに加わったりもします。保育経験が豊富な沓掛さんは、16人の委員の良き相談役となり、子ども支援に関して、保育園や学校、各機関と連携し解決につなげています。定例会では「園児と遊べて心が暖かくなった」と村の保育園訪問への感想も聞かれました。また社協が中心となり各



▲保育園のクリスマス会でサンタクロースに扮した会長

地域に「支え合いの会」が次々と誕生し、委員も積極的に関わり、高齢者など生活支援が必要な人たちを支えている様子が見えがえましました。

顔の見えるあたたかい環境を作り、子どもたちやお年寄りを見守ることを大事にしています。そのためには、進んでコミュニケーションをとり、必要な行動を取ることを辞さない。そうした義民文化が民生児童委員の活動にも流れていると感じました。

活動が認められ、昨年、全国民児連会長より優良民生委員児童委員協議会表彰を受けました。

野沢温泉村民生児童委員協議会

外国人移住者にも対応。信頼で結ばれた関係がうむ好循環で、和気あいあいと活動中。

鎌倉時代中期から「湯山村」として歴史に登場するほどの伝統を誇る温泉地で、スキー場開発でも先駆けのひとつの野沢温泉村は、人口約3千8百人。北陸新幹線の開通を機に飯山駅からの直通バス運行も始まり、観光地としての魅力が高まっています。特にここ数年は外国人の増加が目立つようになったとのことで、国の重要無形文化財に指定されている「野沢温泉の道祖神祭り」にも大勢の外国人が詰めかけます。閉鎖した民宿を外国人が買い取るなど移住も増



▲欠席者があったが、フルメンバーは16人。表彰状を持つのが平田会長。

えており、毎月第一水曜日に行われる定例会では「近所に言葉の通じない外国人が引っ越してきた」との報告もできるようにしました。だからといって、会長の平田展男さん始め民生児童委員が動くことはありません。定例会に参加する行政職員が通訳態勢について提案するなど、必要に応じて関係機関と連携できる態勢になっているからです。「委員間、住民間、委員と住民間、みんなが信頼関係で結ばれている」と、平田会長は語ります。定例会への参加率はほぼ100%。担当地区の様子を委員全員が奇譚(きたん)なく発表して皆で情報を共有し、最善の方策を考えています。

「八チの巣を駆除して欲しい」との相談が、民生児童委員に寄せられたときも、役場を通じて消防署で対処できることが分かりました。平田会長には「望まない品物を買ってしまったという相談があり、荷物受け取り拒否を手伝った」という経験も。これも定例会で報告し、クーリングオフ制度の利用方法を共有しました。こうしたさまざまな相談が寄せられるのも住民との信頼関係があるからで、そのため民生児童委員の対応力も高まる好循環となっています。

定例会ではさらに、県の出前講座を利用したり各分野の専門家を招いたりしての勉強会も行ない、また「現場を知ることが大切」という平田会長の方針で視察も増えました。昨年は南相馬市を訪ね、除染した土の袋が行き場もないまま積み重ねられている現状や、津波の甚大な被害を視察。「報道を通じて見ると、実際に自分の目で見るのとでは違う」と、平田会長。知識と体験を増やししながら、親睦会での交流も密にした和気あいあいの民児協で、在任期間が比較的長いのも自慢です。

一連の活動が評価され、平成27年10月、全国民児連会長表彰を受賞、ますます張り切っています。



▲平成26年の視察先、桑名市の「ひかりの里」で話しを聞く委員たち



表紙写真紹介

上田市武石「余里の花桃」

撮影

上田市川辺泉田地区

民生児童委員 2期目 百瀬 邦昭さん

上田市武石、余里地区では「花咲いさんクラブ」の皆さんが育てて来た2000本の花桃が例年4月下旬から5月連休にかけて約4kmに渡り、白やピンクの彩りで余里の里を埋めつくします。まさに桃源郷です。

profile

定年退職後、趣味として写真を始め、主に地域の風景や花・小鳥等の写真を撮って、自室でA4サイズにプリントし自己満足しています。また、地区の高齢の皆さんとの定期的交流会で鑑賞もしていただいています。



社会福祉法人 松本市児童養護協会

児童養護施設 松本児童園 園長 竹村 潤 さん

**官も民も個人も組織も
つながりながらの園運営です。**

松本児童園の経営母体は、松本市民生児童委員協議会です。同協議会の会長が理事長に就き、理事・監事・評議員それぞれの役員に民生児童委員がメンバーとして加わって運営方針を決め、苦情対応の担当も。「いつも誰かしら民生児童委員の方が出入りしていることになりまね」と、園長の竹村潤さん。珍しい方式のため県外からの視察もひっきりなしです。

竹村さんは約40年にわたって指導員として子どもたちを見てきた後、平成26年から園長を務めています。園内のマネージメントだけでなく、ボランティアや寄付の受け入れ、行政機関や学校、病院との連携など、常に外部のさまざまな分野とのつながりを密にしておくのが重要な役割。「地域の皆さんにお世話になっていきますから、地区役員も引き受けていきます」とのことです。

いろいろな事情で家庭にいられなくなった子どもたちを、児童相談所を通じて受け入れる児童養護施設は、国と県からの措置費で運営されますが、独自事業や施設の改修、拡充などには自己資金も必要で

す。そのための基金は、松本児童園の場合、2種類。ひとつが、卒園生を経済面から支援するのを目的に「国際ソロプチミスト松本」を中心に立ち上げた「あずさ基金」で、もうひとつが経営基盤の強化、安定化のための「養護基金」です。松本市には535人の民生児童委員がいますが、全員が3年間の任期中に1万円をこの基金に寄付することになっているのが大きな特徴です。基金創設からの19年間の民生児童委員による寄付金累計は2600万円に達しています。

「子育て経験がない職員がほとんどなので、とても助かっています」と竹村さんがいうのは、主任児童委員、島内地区の民生児童委員が定期的にも子どもたちの世話に訪れる活動です。祖父母に近い年代のため、子どもたちにとっては家庭的な雰囲気や味わつことのできる時間。そして一委員の皆さんにとっても、園の子どもたちの事情や様子を直に知り、家庭問題の現状を知る機会にもなると思います」と竹村さん。髪のカットや学習指導などボランティアの力も欠かせませんが、民生児童委員の中には教師経験者も多く、頻繁に通ってくる人もいます。

松本児童園の創設は、戦災孤児なども多かった昭和24年。松本市民生児童委員協議会が、社会奉仕の精神をもって福祉の増進に寄与するため、経営主体となることを決めたのは昭和32年。市町村合併により民生児童委員の数が大幅に増え、当初の精神をいかに引き継ぐかが課題だと竹村さんは言っています。

「子どもの問題は隠れがちです。高齢者とは違って、子どもの問題は難しいと感じる委員さんもいらっしゃるようですから、専門家のいる当園にいらして下さい。相談にのります」と、つながりらしいやさしい表情で話していました。



編集委員

リレー日記

東日本大震災、長野県北部地震から5年が経ちました。東日本大震災の犠牲者の中には56人の民生児童委員も含まれています。その多くが安否確認や避難誘導などの活動中に亡くなられたということです。未だ復興途上の被災地に思いを寄せるとともに、災害時の対応について改めて確認したいものです。

今号の特集では、民生児童委員の基本的な活動の一つ「見守り」をテーマに三つの事例を紹介しています。長野県は、平成25年に「高齢者等の地域見守り活動（しあわせ信州見守り活動）」の協力的体制づくりに着手しました。これに呼応して、見守りネットワークが県内の市町村にも広がっていますが、今回は長野市の取り組みを取り上げました。

その他、見守りへの取り組み事例として、集合住宅が建ち並ぶ大規模な団地での活動をレポートしました。「インターフォン越し」の安否確認など、そこには団地ならではの活動の一端が見えてきます。

以上のような活動のほかに認知症患者の徘徊や子どもたちの見守りなど課題は尽きません。地域ぐるみの見守りが何にも増して求められる時代を迎えているようです。

(熊井文弘)